



# WBA 2026年ベンチマーク 採点アプローチ

2024年10月

# WBAの採点アプローチの紹介

ワールド・ベンチマーク・アライアンス（WBA）は、2024年末までにすべてのSDG2000企業を少なくとも一度は評価する予定だ。このマイルストーンは、私たちが効率的かつインパクトのある活動のあり方を検討する上で重要な機会となる。私たちは今後、企業評価の一連の流れを整理する考えだ。私たちは、全2000社のすべてのベンチマークでの評価結果を2026年の初めに一斉に公開し、その後は隔年での公開を予定している。

ベンチマークが有意義かつインパクトのあるものとなるよう、私たちはシンプルかつ調和のとれた採点アプローチを導入した。WBAの新しい企業採点アプローチは、透明性、一貫性、包括性へのコミットメントを示し、ステークホルダーにとって理解しやすく、再現しやすいものとなっている。

## 採点アプローチの概要

WBAの新しい採点アプローチは、明確で一貫性があり、すべてのベンチマークに適用できるように設計されている。いくつかの面で重要な機能強化が図られている。

### 1. シンプルさと一貫性

- **統一された採点尺度**：評価分野と総スコアのいずれにおいても点数は0～100の尺度で正規化され、また、インディケーターは0～1の間で採点される。
- **0または1での評価**：インディケーターを構成する要素は、0（未達成）または1（達成）で評価され、これ以外を排除することで、採点結果におけるわかりやすさと透明性を高めている。

### 2. 効率性と再現性

- **均等加重の原則**：評価分野のすべてのインディケーターは等しく重み付け（加重）され、インディケーターを構成するすべての要素もまた等しく重み付け（加重）される。この一貫性により、異なるベンチマーク間における比較可能で一貫性のある採点プロセスを保証している。
- **自動採点**：スコアリングの構成をシンプルにすることで、ベンチマーク間の自動計算を可能にし、効率性を高め、手作業によるミスの可能性を低減させる。

### 3. インパクトの強化

- **比較可能性の向上**：新たなアプローチは、SDG2000の対象企業におけるデータの比較可能性を高め、ステークホルダーの情報に基づいた意思決定を促す。



- **適用外における根拠の提示**：企業に対して特定のインディケーターや要素が適用されない場合、この適用外により点数が減点されることのないよう、明確なガイドラインに沿って、一貫性のある処理がなされる。
- **評価分野における重み付け**：評価分野における重み付けは、システム変革（Transformation）の考え方方に基づく。

この調和のとれたアプローチは、私たちのベンチマークをより完全性のあるものにする。それだけではなく、ステークホルダーは、（この調和のとれたアプローチにより得られる）信頼性が高くアクセスしやすいデータを用いて（活動の）影響力を高められるようになる。

## 採点方法の概要

ディメンション	定義	採点尺度	重み付け（加重）	計算方法
要素	企業は特定の要素に基づいて評価される	0, 1 [バイナリ]	均等加重の原則：インディケーターを構成するすべての要素は等しく重み付けされる。  重みの合計は100%になる。	要素スコア= 各要素の評価（0 または 1）
インディケーター	インディケーターは評価項目を定義する	0 - 1	均等加重の原則。評価分野を構成するインディケーターは等しく重み付けされる。  重みの合計は100%になる。	インディケータースコア= 要素スコアの平均値
評価分野 (Measurement Area: MA)	民間セクターの行動によって影響を及ぼす必要があるとされる広範な分野	0 - 100	評価分野における重み付けは、システム変革の考え方に基づく。  重みの合計は100%になる。	MAスコア= インディケータースコアの平均 * 100
総スコア	企業のパフォーマンスの集計値	0 - 100	なし	すべての評価分野におけるスコアの加重平均

注：適用外の要素がある場合、その要素の重み付けは、当該インディケーターの他の適用要素に均等に配分される。同様に、適用外のインディケーターがある場合、その要素の重み付けは、当該評価分野の他のインディケーターに再配分される。

要素やインディケーターは可能な限り適用するものの、適用外が発生する場合には、その根拠を明確に示すものとする。

免責事項：2026年初頭にSDG2000のデータ（採点結果）が公開されるまでの間、新しい採点アプローチは、必要に応じて定期的に更新あるいは変更される可能性がある。2026年第1四半期にベンチマークデータ（採点結果）を公開予定である。この際に、採点アプローチの最終版を合わせて公開する。

## WBAの採点アプローチに基づく算出例

以下は、WBAの採点アプローチに基づくスコアの算出方法を示している。

表記の数値は、簡略化した計算式での一例である。

**あるベンチマークにおける事例：**ベンチマークBにおけるA社のスコアを算出する場合



## 評価分野 (MA)

- ベンチマークBは2つの評価分野 (MA) から構成される : MA1, MA2
- MA1 : 重み = 40%
- MA2 : 重み = 60%

## インディケーター

- MA1は4つのインディケーターから構成される : I1, I2, I3, I4
- MA2は5つのインディケーターから構成される
- すべてのインディケーターは、一つの評価分野において等しく重み付けされる

## 要素

- 各インディケーターはいくつかの要素から構成される
- A社が要素の基準を満たしているかどうかに応じて、0 (未達成) または 1 (達成) のスコアが割り当てられる。
- すべての要素は、一つのインディケーターにおいて等しく重み付けされる

## 計算方法 :

### インディケータースコア

- インディケータースコアは、各インディケーターのすべての要素スコアの平均値である
  - インディケーター1 (I1) は4つの要素から構成される。A社は、要素 1、要素 3、要素 4 を満たしている。要素 2 は満たしていない
  - インディケーター2 (I2) は 3 つの要素から構成される。A社は、要素 2、要素 3 を満たしている。要素 1 は満たしていない
- インディケータースコア = 要素スコアの合計 / 要素の数
  - $I1 = (1+0+1+1)/4 = 3/4$
  - $I2 = (0+1+1)/3 = 2/3$

### 評価分野スコア

- 評価分野スコアは、インディケータースコアの平均に100を掛けたものである
- 評価分野スコア = (インディケータースコアの合計 / インディケーターの数) \* 100
  - $MA1 = (3/4 (I1) + 2/3 (I2) + 1 + 1/2)/4 * 100 = 72.9$
  - $MA2 = (1 + 1/2 + 1/5 + 1/2 + 3/5)/5 * 100 = 56.0$

### 総スコア

- A社のスコアの合計は、すべての評価分野スコアの加重平均である
- 総スコア = (MA1 スコア \* MA1 の重み) + (MA2 スコア \* MA2 の重み)
  - 総スコア =  $(72.9 * 40\%) + (56.0 * 60\%) = 29.2 + 33.6 = 62.8$

